

◎指示があるまで開かないこと。

(令和3年2月7日 13時35分～15時10分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味1時間35分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題にはaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/>

答案用紙②の場合、

101	101
<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/> c
<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
<input type="radio"/> e	<input type="radio"/>







1 入院診療計画書に記載が求められていないのはどれか。

- a 入院時の傷病名
- b 予測される入院費
- c 推定される入院期間
- d 退院に向けた支援計画
- e 入院中に計画される検査

2 慢性腎臓病の重症度分類(別冊No. 1)を別に示す。

A1 から A3 の方向(横軸方向)の区分を規定する指標はどれか。

- a eGFR
- b 年 齢
- c 蛋白尿
- d 体格指数
- e 平均血圧

別 冊

No. 1

3 医療機関における麻薬の管理・取扱いについて誤っているのはどれか。

- a 鍵をかけた堅固な設備に保管する。
- b 残った注射薬は研修医が1人で破棄する。
- c 紛失した場合は都道府県知事に届け出る。
- d 施用・交付時に診療録に必要事項を記載する。
- e 施用・交付には麻薬施用者免許が必要である。

4 肥満のある高血圧症の患者が行動変容の準備期に入ったと考えられるのはどれか。

- a 毎食の塩辛い漬物がやめられない。
- b 1週間、食事の塩分制限を続けている。
- c 1年以上、ウォーキングを毎日続けている。
- d 明日から食後のジョギングを始めるつもりでいる。
- e 半年後にくる誕生日から間食を減らそうと思っている。

5 成人を対象としたインフォームド・コンセントについて正しいのはどれか。

- a 本人と家族の同意が必要である。
- b 患者は同意をいつでも撤回できる。
- c 予後についての説明は必要でない。
- d 医師の過失責任を回避する目的で行う。
- e 最新の治療法を推奨しなければならない。

6 腰椎穿刺について正しいのはどれか。

- a 脳ヘルニアの患者が適応である。
- b Jacoby 線より上の腰椎間腔を穿刺する。
- c 脳脊髄液をシリンジで吸引して採取する。
- d 細い穿刺針の方が穿刺後頭痛のリスクが高い。
- e 側臥位で両膝を両手で抱え首を前屈した体位をとらせる。

7 医師法第1条の条文を示す。

「医師は、医療と保健指導を掌ることによって、(ア)の向上と増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする。」

(ア)に入るのはどれか。

- a 公衆衛生
- b 社会保障
- c 生命科学
- d 適正診療
- e 臨床医学

8 出血性ショックによる意識障害のある患者が付き添いなく救急搬送され、緊急手術が必要であると判断された。患者は他院に通院歴があることが判明している。

医療者の行為として誤っているのはどれか。

- a 術前に家族へ連絡を試みた。
- b 院内で緊急手術の必要性について討議した。
- c 通院歴のある医療機関へ診療情報の問い合わせをした。
- d 治験参加への同意書が未取得の段階で治験用の降圧薬を使用した。
- e 輸血開始時までに血液型が判明しなかったためO型Rh(-)の赤血球輸血を行った。

9 外傷の初期診療において迅速簡易超音波検査<FAST>で確認するのはどれか。

- a 気胸
- b 骨折
- c 臓器損傷
- d 大動脈径
- e 体腔内出血

- 10 良性発作性頭位めまい症について正しいのはどれか。
- a 難聴を伴う。
  - b 小児に好発する。
  - c 一過性の意識消失を伴う。
  - d 頭位変換時に眼振を示す。
  - e 浮遊耳石は半規管由来である。
- 11 成人患者に対する血液培養検体の採取方法について正しいのはどれか。
- a 抗菌薬投与後に検体を採取する。
  - b 2セットとも1か所から採血する。
  - c 採血部位の皮膚消毒後、消毒薬が乾く前に採血を行う。
  - d 採取後の血液は好気ボトル、嫌気ボトルの順に入れる。
  - e ボトルに検体を注入後、ボトル内の培地と血液を転倒混和する。
- 12 関節可動域で内旋および外旋を測定する関節はどれか。
- a 肩関節
  - b 肘関節
  - c 手関節
  - d 膝関節
  - e 足関節

- 13 浸透圧利尿による多尿をきたすのはどれか。
- a 高血糖
  - b 心因性多飲
  - c 腎性尿崩症
  - d 中枢性尿崩症
  - e 低カリウム血症
- 14 末梢神経伝導検査が診断に有用なのはどれか。
- a 肘部管症候群
  - b Parkinson 病
  - c 多発性筋炎
  - d 脊髄損傷
  - e 脳梗塞
- 15 世界的大流行を引き起こし、中世ヨーロッパでは黒死病として恐れられた感染症はどれか。
- a 結核
  - b コレラ
  - c 天然痘
  - d ペスト
  - e 発疹チフス

- 16 心臓ペースメーカー植込み患者に対して、ペースメーカーの機種を確認してから実施すべきなのはどれか。
- a 食道生検
  - b FDG-PET
  - c 腹部造影 CT
  - d 超音波内視鏡検査
  - e 磁気共鳴胆管膵管撮影(MRCP)
- 17 臨床研究におけるバイアスと交絡について誤っているのはどれか。
- a 情報バイアスは対象者から情報を得る際に生じる。
  - b 選択バイアスは対象者の選択方法から生じる。
  - c 交絡因子は研究デザインにより調整できる。
  - d 交絡因子は原因と結果の両方に関連する。
  - e 情報バイアスは統計的手法で調整できる。
- 18 うつ病の症状に含まれるのはどれか。
- a 食欲がない。
  - b 入眠時に幻視を認める。
  - c 好きなことだけにやる気を出す。
  - d 簡単な計算でも間違った答えを言う。
  - e 自殺せよという命令がテレパシーで頭に入ってくる。

19 医療事故の発生要因であるヒューマンエラーの防止策として適切でないのはどれか。

- a 医療安全を確保するための研修制度
- b 各種マニュアルの定期的な見直し
- c 有能な人材への業務の集中
- d 危険予知トレーニング
- e 指さし呼称確認

20 末梢静脈路ではなく末梢挿入中心静脈カテーテル(PICC)を選択すべき輸液製剤の組成はどれか。

- a Na 154 mEq/L
- b K 20 mEq/L
- c Cl 35 mEq/L
- d Lactate 20 mEq/L
- e Glucose 20%

21 内ヘルニアはどれか。

- a 鼠径ヘルニア
- b 大腿ヘルニア
- c 閉鎖孔ヘルニア
- d 食道裂孔ヘルニア
- e 腹壁癒痕ヘルニア

- 22 日本人の食事摂取基準について正しいのはどれか。
- a 個人には適用されない。
  - b 65歳未満を対象とする。
  - c 妊娠や授乳期間については扱わない。
  - d 目標とするBMIは18~20の範囲である。
  - e エネルギーと栄養素の摂取量の基準を示すものである。

- 23 膀胱の蓄尿症状をきたさない疾患はどれか。
- a 腎結石
  - b 脳梗塞
  - c 脊髄損傷
  - d Parkinson病
  - e 間質性膀胱炎

- 24 喫煙が発症因子となる疾患はどれか。
- a 過敏性肺炎
  - b レジオネラ肺炎
  - c 急性好酸球性肺炎
  - d 非結核性抗酸菌症
  - e マイコプラズマ肺炎

25 左動眼神経麻痺のある患者が左方注視をしたときの両眼球の位置(別冊No. 2 ①～⑤)を別に示す。

正しいのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊

No. 2 ①～⑤

26 70歳の男性。意識障害を主訴に来院した。その後に脳梗塞の診断で治療が行われたが、後遺症のため全く意思疎通ができず、嚥下機能が廃絶し、経口摂取ができず、改善は見込めない。家族に確認すると胃瘻造設についての患者自身による意思表示の文書が見つかった。

この患者における胃瘻造設の方針を検討する上で最も優先されるのはどれか。

- a 要介護度
- b 医師の判断
- c 家族の希望
- d 本人の意思
- e 受け入れ施設の状況

27 40歳の女性。外陰部の瘙癢感を主訴に来院した。1か月前から瘙癢を伴う帯下が続いている。痛みはない。身長158cm、体重64kg。体温36.5℃。脈拍72/分、整。血圧124/76mmHg。呼吸数18/分。内診で子宮と両側付属器に異常を認めない。帯下は黄色泡沫状。外陰に発赤を認めない。

可能性が高いのはどれか。

- a 萎縮性膣炎
- b 細菌性膣炎
- c カンジダ膣炎
- d トリコモナス膣炎
- e クラミジア子宮頸管炎

28 53歳の男性。術後に意識障害を呈した。10年前に糖尿病と診断され、経口血糖降下薬を内服していた。食道癌に対する外科手術を受け、術後はインスリンの経静脈投与を開始された。術後経過は安定していたが、術後2日目に意識障害が出現し、簡易血糖測定器で血糖値32mg/dLを示した。主治医からのインスリン投与指示を確認すると、維持輸液用の点滴バッグ内に速効型インスリン10単位を混注することとなっていたが、実際には担当した病棟医が100単位を混注していた。主治医が50%ブドウ糖の静注投与を行い、患者の意識は回復し、血糖値も100mg/dLへ上昇した。

主治医から担当した病棟医への言葉として適切なのはどれか。

- a 「リスクマネジャーへの報告が必要です」
- b 「あなたの起こしたことなので、私には関係がありません」
- c 「家族に余計な心配をかけたくないので、連絡は控えておきましょう」
- d 「診療録には、当初の指示どおり10単位混注したと記載してください」
- e 「患者さんに聞かれたら意識障害の原因は不明と答えることにしましょう」

29 21歳の女性。性暴力による健康被害の検査を求めて来院した。昨夜、1人でバーに行った。隣のテーブルにいた男性グループから話しかけられ、なんとなく話をしながらカクテルを飲んでいるうちに急に意識がもうろうとし、午前2時に気が付いたときにはホテルのベッドの上にあった。状況から、意識を失っているうちに性暴力被害に遭っていたと考えられた。自宅に帰った後、母親の強い勧めで母親に付き添われて午前5時に救急外来を受診した。意識は清明。話す態度は取り乱す様子はなく落ち着いている印象で「知らない人と飲酒した自分が悪いのです」と話している。

医師の言葉として適切でないのはどれか。

- a 「自分を責める必要はありません」
- b 「病院に来るのは勇気がいりましたね」
- c 「婦人科医師の診察を希望されますか」
- d 「お辛いのによく話してくださいました」
- e 「大したことではないので早く忘れた方がいいです」

30 14歳の女子。採血を伴う臨床研究に参加してもらいたい。患者には知的障害や認知機能障害はない。

誤っているのはどれか。

- a 患者への説明は理解ができるように行う。
- b インフォームド・アセントを得る必要がある。
- c 同意書は記名・捺印もしくは自署名が必要である。
- d 採血行為による侵襲の程度は倫理審査委員会で判断する。
- e 保護者が同意しなくても本人が同意すれば研究参加は可能である。

31 83歳の女性。右大腿骨頸部骨折のため手術を受けた。手術当日の夜は意識清明であったが、手術翌日の夜間に、実際は死別しているにもかかわらず「夫の食事を作るために帰宅したい」などと、つじつまの合わない言動が出現した。これまで認知症症状を指摘されたことはない。

この病態について誤っているのはどれか。

- a 幻視を伴う。
- b 日中にも起こる。
- c 身体疾患が原因となる。
- d 意識レベルが短時間で変動する。
- e ベンゾジアゼピン系薬剤が有効である。

32 84歳の男性。発熱と咳嗽を主訴に来院し、誤嚥性肺炎の診断で入院した。意識は清明。身長173 cm、体重60 kg。体温38.5℃。脈拍96/分、整。血圧120/80 mmHg。呼吸数22/分。SpO<sub>2</sub>96% (鼻カニューラ2 L/分酸素投与下)。入院時から多職種で誤嚥性肺炎治療のサポートを行うことになった。

この患者に関わる職種とその職務内容の組合せで誤っているのはどれか。

- a 看護師 ————— 抗菌薬の処方
- b 管理栄養士 ———— 食形態の評価
- c 言語聴覚士 ———— 嚥下訓練
- d 薬剤師 ————— 内服薬の剤型検討
- e 理学療法士 ———— 呼吸リハビリテーション

33 2か月の男児。右鼠径部の膨隆と嘔吐を主訴に母親に連れられて来院した。2週前、入浴時に右鼠径部が膨れているのに気付いたが、しばらくすると膨隆は消失していた。前日の夕方、おむつ交換時に右鼠径部が膨れていた。本日朝、右鼠径部から陰囊にかけての膨隆が前日よりも大きくなっていた。授乳後に頻回の嘔吐を認めため午後受診した。機嫌不良。身長 54 cm、体重 4.4 kg。体温 37.3℃。心拍数 150/分、整。血圧 106/50 mmHg。呼吸数 40/分。腹部は膨満している。右鼠径部から陰囊にかけて膨隆し、触ると嫌がる。外観写真(別冊No. 3A)を別に示す。血液所見：赤血球 420 万、Hb 12.3 g/dL、Ht 36%、白血球 18,000、血小板 22 万。血液生化学所見：尿素窒素 10 mg/dL、クレアチニン 0.5 mg/dL、Na 135 mEq/L、K 4.2 mEq/L、Cl 102 mEq/L。CRP 5.0 mg/dL。腹部エックス線写真(臥位)(別冊No. 3B)を別に示す。

対応として正しいのはどれか。

- a 陰囊穿刺
- b 経過観察
- c 緊急手術
- d 徒手整復
- e 抗菌薬投与

別冊 No. 3 A、B
-----------------

34 37歳の初妊婦(1妊0産)。妊娠26週。血糖値の異常を指摘され紹介受診した。妊娠初期から妊婦健康診査を受けていた。妊娠24週時に施行された50gブドウ糖負荷試験で血糖値156mg/dLであったため精査のため紹介となった。既往歴に特記すべきものはない。身長156cm、体重75kg(非妊時69kg)。体温37.0℃。脈拍76/分、整。血圧122/76mmHg。呼吸数18/分。尿蛋白(-)、尿糖(±)。来院後に施行した75g経口ブドウ糖負荷試験(OGTT)は、空腹時血糖値90mg/dL、1時間値192mg/dL、2時間値138mg/dLであった。

今後の管理としてまず行うのはどれか。

- a 運動療法
- b 経過観察
- c 食事療法
- d インスリン投与
- e 経口血糖降下薬投与

35 38歳の男性。職場で床に落ちた書類を拾おうと屈んだところ、腰痛と右下腿痛が出現したため受診した。既往歴に特記すべきことはない。身長165cm、体重58kg。体温36.7℃。脈拍80/分、整。腰椎エックス線写真で異常を認めず、腰部単純MRIで第4腰椎と第5腰椎間の右側に椎間板ヘルニアを認めた。

この患者で認められないのはどれか。

- a 疼痛性跛行
- b 会陰部の異常感覚
- c 右下腿外側の感覚鈍麻
- d 右母趾背屈筋力の低下
- e 右下肢伸展挙上テスト陽性

36 78歳の女性。左前胸部痛を主訴に来院した。今朝6時ころ歯磨き中、突然、左前胸部痛が出現した。症状は今回が初めてで、左前胸部全体が締め付けられるような痛みであった。その感覚は咽頭部から左肩に放散し、冷汗を伴っていた。横になって休んでいたところ、症状は約20分で消失した。心配した家族とともに午前10時30分に受診した。体温36.5℃。脈拍76/分、整。血圧100/78 mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub>98%(room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部の診察で異常を認めない。直ちに施行した心電図(別冊No. 4)を別に示す。心エコー検査で前壁から心尖部にわずかに壁運動低下を認めた。

この時点で、まず確認すべきなのはどれか。

- a FDG-PET
- b 運動負荷心電図
- c 心筋シンチグラフィ
- d 心筋トロポニン T
- e 脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)

別冊

No. 4

37 23歳の男性。咳嗽および血痰を主訴に来院した。3日前から乾性咳嗽が出現し、激しくせき込むようになった。今朝、咳嗽時に少量の血痰が1回出現したため心配になって受診した。悪心や嘔吐はなく、食欲良好で体重減少や盗汗はない。結核曝露歴や最近1か月の海外渡航歴はない。既往歴に特記すべきことはなく、喫煙歴と飲酒歴はない。意識は清明。診察中には咳嗽が時々出るが血痰は出ていない。身長160 cm、体重72 kg。体温36.1℃。脈拍72/分、整。血圧122/58 mmHg。呼吸数12/分。口腔内と咽頭に異常はなく、頸部リンパ節腫脹を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。

この時点で最も事前確率の高い疾患はどれか。

- a 肺 癌
- b 気管支喘息
- c 急性気管支炎
- d Goodpasture 症候群
- e 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症〈Churg-Strauss 症候群〉

38 9か月の男児。RSウイルス感染症による呼吸窮迫とチアノーゼのため入院中である。在胎40週、体重3,250gで出生した。呼吸心拍モニターのアラームが鳴ったため、医師が病室に行ったところ児の顔色不良を認め、気道開通の体位をとった。末梢静脈ルートは確保されていて蘇生のための準備は整っている。心拍数50/分、整。呼吸数10/分。SpO<sub>2</sub>60% (酸素テント40%酸素投与下)。呼吸音は両側弱く喘鳴を認める。右上腕動脈の脈は触知した。

直ちに行う処置はどれか。

- a 除細動
- b 胸骨圧迫
- c アドレナリン静注
- d 吸入酸素濃度増加
- e バッグバルブマスク換気

39 70歳の女性。腰背部痛を主訴に来院した。1年前に右乳癌で乳房切除術を受けたが、その後肝、肺および腰椎に転移が認められていた。薬物による抗癌治療を選択せず、通院せずに自宅での療養を希望した。1か月前から右腰背部に鈍痛を自覚し、1週間前から増強するために受診した。疼痛に対しNSAIDの投与が開始されたが、疼痛で眠れないため、本日受診時に硫酸モルヒネの投与が追加された。

今後注意すべき症状に含まれないのはどれか。

- a 黄 疸
- b 悪 心
- c 下 痢
- d 下肢麻痺
- e 呼吸困難

40 60歳の男性。右片麻痺と言語障害を主訴に救急車で搬入された。現在高血圧症で内服加療中である。今朝起きて1時間後から右手足の動きが悪く、言葉が出にくいことに気付いた。意識はJCS I-1。体温36.5℃、心拍数90/分、整。血圧160/94 mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。運動性失語を認める。右片麻痺は徒手筋力テストで上下肢共に3。心電図は洞調律であった。胸部エックス線写真で異常を認めない。頭部単純CTで異常を認めない。血液所見：赤血球450万、Hb 14.2 g/dL、Ht 42%、白血球8,800、血小板18万、PT-INR 1.0 (基準0.9~1.1)。血液生化学所見：尿素窒素15 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、血糖102 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 3.7 mEq/L、Cl 99 mEq/L。血液検査の結果が出るまでに施行した頭部MRIの拡散強調像では、左中大脳動脈領域の一部で限局性に淡い高信号域を認めた。発症から90分経過している。

まず急速静注すべき薬剤はどれか。

- a β遮断薬
- b ベラパミル
- c 塩化カリウム
- d 副腎皮質ステロイド
- e t-PA〈tissue plasminogen activator〉

次の文を読み、41、42の問いに答えよ。

75歳の男性。呼吸困難を主訴に受診した。

**現病歴** : 3日前に飛行機で1泊2日の旅行をし、2日前に帰宅した。機内では約3時間座っていた。帰宅した翌日に右下肢のむくみと痛みが出現した。受診日の朝起床後に急に労作時の息切れが出現したため、受診した。受診時、呼吸困難を訴えている。

**既往歴** : 60歳時に進行胃癌で胃全摘を受けた。術後5年間再発なく、通院終了となった。70歳から高血圧症、糖尿病に対し、降圧薬、経口血糖降下薬を内服中。

**アレルギー歴** : 特記すべきことはない。

**生活歴** : 喫煙は40本/日を40年間、15年前に禁煙。飲酒は日本酒1合を週1回。妻と2人暮らし。偏食はない。

**家族歴** : 特記すべきことはない。

**現症** : 意識は清明。身長162 cm、体重60 kg。体温36.1℃。脈拍112/分、整。血圧90/55 mmHg、左右差はない。呼吸数28/分。SpO<sub>2</sub> 91% (room air)。眼瞼結膜は貧血様で、眼球結膜に黄染を認めない。口腔内と咽頭に異常を認めない。頸静脈怒張を認める。甲状腺と頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音ともに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、正中に手術痕を認める。右下腿は腫脹しており、圧痕性浮腫、熱感および発赤を認める。両側足背動脈は触知良好である。

**検査所見** : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体(-)、潜血(-)。血液所見：赤血球250万、Hb 8.4 g/dL、Ht 33%、MCV 132 fL、白血球10,200(好中球80%、好酸球1%、好塩基球1%、単球2%、リンパ球16%、好中球の核過分葉を認める)、血小板10万、PT-INR 1.0(基準0.9~1.1)、APTT 31.6秒(基準対照32.2)、Dダイマー2.3 μg/mL(基準1.0以下)。血液生化学所見：総ビリルビン1.0 mg/dL、AST 21 U/L、ALT 9 U/L、LD 306 U/L(基準120~245)、ALP 187 U/L(基準115~359)、CK 60 U/L(基準30~140)、尿素窒素11 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL、血糖114 mg/dL、HbA1c 6.9%(基準4.6~6.2)、Na 140 mEq/L、K 4.1 mEq/L、Cl 105 mEq/L、Ca 8.4 mg/dL。CRP 2.9 mg/dL。

心電図(別冊No. 5A)及び胸部エックス線写真(別冊No. 5B)を別に示す。

別 冊

No. 5 A、B

41 診断はどれか。

- a 急性冠症候群
- b 脂肪塞栓
- c 心膜炎
- d 大動脈解離
- e 肺血栓塞栓症

42 入院後呼吸状態が安定した。病棟内歩行を再開したところ、洗面所で洗顔時に転倒した。詳しく問診すると、以前から、夜間に暗い場所ではふらつくようなことがあったという。

予想される診察所見はどれか。

- a 静止時振戦
- b 眼球運動障害
- c Horner 徴候陽性
- d Romberg 徴候陽性
- e Chvostek 徴候陽性

次の文を読み、43、44の問いに答えよ。

84歳男性。発熱と左側胸部痛を主訴に来院した。

**現病歴** : 5日前から咽頭痛と37℃前後の微熱があり、市販の感冒薬を内服したが発熱は持続していた。2日前から徐々に左側胸部の持続性の疼痛が出現した。痛みは呼吸に伴い増悪する。今朝になって、左側胸部痛が強くなっており心配になって受診した。冷汗や意識消失はない。

**既往歴** : 徐脈性心房細動、Ⅱ度の僧帽弁閉鎖不全、心不全、高血圧症で、抗血栓薬とアンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬、利尿薬を内服中である。5年前に徐脈性心房細動に対し、ペースメーカー植込み術を受けた。

**家族歴** : 父が85歳時に脳出血で死亡。母が80歳時に胃癌で死亡。

**現症** : 意識は清明。身長158cm、体重56kg。体温37.6℃。脈拍60/分、整。血圧120/80mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub>98%(room air)。

左下胸部に、打診で濁音、聴診で呼吸音の減弱および胸膜摩擦音を認める。胸部に圧痛を認めない。心音は、Ⅲ音と心尖部を最強とするLevine3/6の全収縮期雑音を聴取する。

心電図(別冊No. 6A)及び胸部エックス線写真(別冊No. 6B)を別に示す。

別冊

No. 6 A、B

43 心電図所見として、正しいのはどれか。

- a 洞調律
- b 心室頻拍
- c 心室ペーシング
- d 完全右脚ブロック
- e 完全房室ブロック

検査結果を示す。

**検査所見** : 尿所見 : 蛋白 (-)、糖 (-)。血液所見 : 赤血球 450 万、Hb 13.3 g/dL、Ht 40 %、白血球 9,800 (桿状核好中球 2 %、分葉核好中球 58 %、好酸球 3 %、好塩基球 1 %、単球 8 %、リンパ球 28 %)、血小板 18 万。血液生化学所見 : AST 36 U/L、ALT 38 U/L、LD 263 U/L (基準 120~245)、CK 88 U/L (基準 30~140)、尿素窒素 12 mg/dL、クレアチニン 0.8 mg/dL。CRP 8.2 mg/dL。

44 考えられるのはどれか。

- a 気胸
- b 胸膜炎
- c 大動脈解離
- d 肺血栓塞栓症
- e ウイルス性心筋炎

次の文を読み、45、46の問いに答えよ。

28歳の女性。意識障害のため救急車で搬入された。

**現病歴** : 自室内のベッドで仰向けに倒れているのを友人が発見し、呼びかけに反応が乏しいため救急車を要請した。友人とはその3時間前に電話にて口論となり「死にたい」などと話した後に連絡が取れなくなったという。救急車到着時、自室内の戸棚に錠剤の空包が多数あった。

**既往歴** : うつ病の診断で3か月前から三環系抗うつ薬とベンゾジアゼピン系睡眠薬を服用中。1か月前にも過量服薬による意識障害で他院に緊急入院している。

**生活歴** : 喫煙歴と飲酒歴はない。仕事は事務職で半年前に部署が変わり、ストレスが多いと感じていたという。

**家族歴** : 特記すべきことはない。

**現症** : 意識レベルはJCSⅢ-100。身長158 cm、体重45 kg。体温36.7℃。心拍数108/分、整。血圧108/60 mmHg。呼吸数24/分。SpO<sub>2</sub> 91% (リザーバー付マスク10 L/分酸素投与下)。舌根沈下が強く、いびき様の呼吸をしている。皮膚はやや乾燥している。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。瞳孔径は両側6.0 mm 正円で、対光反射は両側で遅延している。頸静脈の怒張は認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腸雑音はやや弱い。四肢に麻痺はなく、腱反射は正常である。心電図は洞調律で不整はないが、QRS幅が広がりQT間隔の延長を認める。ST-T変化は認めない。

45 直ちに行うべき処置はどれか。

- a 胃洗浄
- b 気管挿管
- c アトロピン静注
- d フロセミド静注
- e プレドニゾロン静注

- 46 診察により肺炎の合併が疑われた。  
誤嚥性肺炎の所見と合致しないのはどれか。
- a 胸郭打診による濁音
  - b 胸壁触診による皮下握雪感
  - c 視診による口腔内の吐物残渣
  - d 聴診による coarse crackles の聴取
  - e 聴診による呼吸音の減弱

次の文を読み、47、48の問いに答えよ。

75歳の男性。発熱、腹痛および下痢のため救急車で搬入された。

**現病歴** : 10日前から左下腿蜂窩織炎のために入院して抗菌薬の点滴を行い、改善したため抗菌薬を内服投与に切り替えて4日前に退院した。2日前から発熱、腹痛および1日5回以上の水様下痢が出現した。経口摂取と体動が困難となったため同居する妻が救急車を要請した。退院後に食中毒の原因となり得る食物の摂取歴はない。周囲に同じ症状の人はいない。

**既往歴** : 50歳台から高血圧症で降圧薬を服用中である。66歳時に2型糖尿病と診断され1年前からインスリン治療を行っている。

**生活歴** : 妻と2人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

**家族歴** : 兄が糖尿病で治療中である。

**現症** : 意識は清明。身長168 cm、体重73 kg。体温38.6℃。心拍数120/分、整。血圧136/70 mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub>96%(room air)。皮膚のツルゴールは低下している。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常は認めない。口腔内は乾燥している。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で肝・脾を触知しない。下腹部に圧痛があるが反跳痛はない。腸雑音は亢進している。四肢は下腿に発赤や熱感を認めない。

**検査所見** : 血液所見：赤血球490万、Hb14.3 g/dL、Ht42%、白血球18,200(好中球84%、好酸球1%、単球3%、リンパ球12%)、血小板20万、血液生化学所見：総蛋白6.2 g/dL、アルブミン3.8 g/dL、総ビリルビン0.4 mg/dL、AST30 U/L、ALT38 U/L、尿素窒素40 mg/dL、クレアチニン1.8 mg/dL、尿酸9.6 mg/dL、血糖158 mg/dL。CRP4.3 mg/dL。

- 47 診察にあたり誤っている感染予防策はどれか。
- a 個室での診察
  - b 直腸診実施時のゴーグルの着用
  - c 入室時のディスポーザブルガウンの着用
  - d 便検体採取時のサージカルマスクの着用
  - e 診察後の次亜塩素酸ナトリウムによる手指衛生
- 48 便を用いた検査のうち、診断に最も有用なのはどれか。
- a 脂肪染色
  - b 潜血
  - c 虫卵
  - d 毒素検出
  - e 培養

次の文を読み、49、50の問いに答えよ。

68歳の男性。ふらつき感を主訴に来院した。

**現病歴** : 本日起床時から、頭がふらふらする感じを自覚したため受診した。

**既往歴** : 2年前に自宅近くの診療所で糖尿病と診断されたが、その後通院していない。

**生活歴** : 長男夫婦と同居している。偏食が激しく、近所で買って来た菓子などで不規則な食事をし、しばしば居酒屋で大量飲酒している。

**現症** : 意識は清明。身長165 cm、体重70 kg。体温36.2℃。脈拍104/分、整。血圧104/64 mmHg。呼吸数20/分。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。眼振を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢の筋力低下を認めず、四肢・体幹の運動失調を認めない。起立と歩行に異常を認めないが両側アキレス腱の腱反射が消失している。

**検査所見** : 来院時、簡易血糖測定器で測定した血糖は350 mg/dLであった。

49 患者は「まだ糖尿病なのですかね」と話した。

医師の適切な応答はどれか。

- a 「このまま放っておくと失明しますよ」
- b 「直ちにインスリンによる治療が必要です」
- c 「わかっているのになぜ放っておいたのですか」
- d 「糖尿病についてどのようにご理解されていますか」
- e 「医師の言うことを守れないのであれば通院する必要はありません」

- 50 糖尿病の診療を開始するにあたり、医師の説明で適切なのはどれか。
- a 「すぐに運動して、体重を落としましょう」
  - b 「薬物治療の導入は、薬剤師が決定します」
  - c 「ご家族にも病状を説明したいのですが、良いですか」
  - d 「看護師が生活指導を担当するので、医師に聞かないでください」
  - e 「治療について医師の言うことは絶対なので、必ず守ってください」





